

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390200063		
法人名	有限会社 ラポール新世園		
事業所名	グループホームきずなの郷		
所在地	熊本県八代市古閑下町2225		
自己評価作成日	平成30年2月10日	評価結果市町村受理日	平成30年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい		
所在地	熊本市中央区草葉町1-13-205		
訪問調査日	平成30年3月6日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

\*ご利用者様方が穏やかにその人らしい生活を継続できるように支援を行っていきたい。ご利用者様の体調の管理を常に把握し不良時は速やかに訪問看護、各医療機関、との連携をとりご利用者様、ご家族の心身の負担の軽減に努めています。\*年間4回の手作りの広報誌(事業所2回)を地域、家族様へ発行する事で事業所を理解して頂いている。\*グループホーム部会の研修や内部研修の参加を促し、認知症への理解や介護職としての意識の向上、またリフレッシュすることにより業務への意欲の向上につなげるように環境整備を行っている。\*今年度から、地域包括支援センターと共にご利用者様方が集う場所としてカフェの創設を手掛け外出の機会をご利用者様方に味わっていただいている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

見慣れた田園風景の静かな環境に立地し、地元の食材を豊富に使い、季節感を大切にした食事が提供されています。日々のケアは理念を確認しながら、その人らしさを大切にされています。医療連携もなされ、必要に応じて看取りの説明もされています。自己評価にも表現されていますが、戸外活動や地域の馴染みの関係作りがこれからの課題のようです。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の生活の中で理念として提唱している項目に基づき、家族、利用者様、地域との関わり的大事さを事業所全体で再確認している。	理念に沿って日々のケアを実践できるよう、具体的に理解できるような言葉かけやケアの在り方を周知し、理念の再確認がされています。	日々のケアの実践において、更に具体的に活かされることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の集会や行事等はスタッフも参加したり事業所の行事には老人会いきいきサロンのボランティアの慰問もあり少しずつ地域に根付いていけるようしている。	地域の祭りやふれあいカフェへの参加はされていますが、地域住民の一員としての活動は少ないようです。	地域の一員としての役割や活動に取り組まれることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターとの連携や情報交換、運営推進会議等で日々の認知症ケアの報告、緊急時等、職員の活用貢献を図りたい旨の提言を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での検討事項や連絡、提案事項についてその経過を報告、今後の計画を検討し内容について意見をもらうようにしている。	定期的な開催が実施されています。事業所の活動報告や行事予定の報告とともに、地域包括支援センターや行政の担当者からの情報提供がされています	地域の協力を必要とする課題等を提案されて、会議にて意見を求められてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や事業所の行事への出席の案内も行い参加をしてもらっている。介護保険での不明の点等に対しても積極的に連携を取り課題解決に向けている。	市町村との関係は良好で積極的に連携を図られています。	事業所の現状を伝えるとともに、情報を共有することで、市町村との共通の取り組みがされることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修の参加を積極的に行いミーティング等で身体拘束の禁止の確認に努め、利用者の自由を尊重し身体拘束に繋がらないよう取り組んでいる。また、活動が活発な方に対しても常に所在確認を行い、見守りの強化に努めている。	事業所内外での研修の情報を職員間で共有され、実際のケアに取り組まれています。	利用者の言葉をさえぎったり、気持ちを押しさえつけていないかなど、日々のケアの振り返りをミーティングなどでされてはいかがでしょうか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	グループホーム部会、他機関の研修に参加し事業所内でもミーティング時、虐待防止の確認、理解を深めることにより尊厳に向けた取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	部会の研修会等に率先した参加を呼びかけ、制度について学ぶ機会を持ち、各々の意見を交換することで理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用者や家族にケアに関する考え方や取組を十分に説明を行い理解、納得が得られる様にしている。家族の不安等が生じた場合は随時納得が得られるまで説明を行い理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に一回の運営推進会議への参加を可能な時、輪番制で担当をしてもらい家族としての意見を出してもらっている。又、年度末の家族会時、事業所への意見があればお聞きし必要時検討会を行うよう考えている。	家族会や面会時に意見を気軽に言ってもらえるような声かけをされています。利用料金や外出の事については個別に相談を受けています。	利用者や家族から意見を気軽に言える雰囲気作りとともに、事業所から積極的に聴く働きかけをするなど、意見を吸い上げる取り組みが必要と思われます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会、部署会議において意見や要望を聞き、話やすい職場環境を作っている。また、各事業所より委員の選出をし他事業所との交流の場も作っている。必要時は個人面談を行っている。	職員の意見を聞く機会は設けられています。不満や苦情等言い難い部分については随時に聴きとりをされていますが、具体的な提案や要望はあまりでないようです。	現場の意見や情報をしっかり取り入れ、一緒に話し合いをしながら調整が行われることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	健康で生き甲斐のある職場環境を作り職員の人員の確保、希望による休日の取り方を心がけ楽しい職場づくりに努めている。資格取得の支援も図れるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	部会、行政の研修案内時なるだけ多くのスタッフが参加できるように声掛けしている。参加することで意識の向上、知識の向上を、技術の向上も図れるようにしている。研修記録の提出をし各自再確認している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八代ブロック連絡協議会が管理者、職員の研修会を毎月開催の中、他施設の意見交換、体験談等情報収集することにより質の向上やケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用申し込み時、本人と面談行う事により心身の状況の確認、生活歴等の把握を行い、家族からもアセスメント行うことでさまざまな思いを確認できスタッフも受け入れが可能な状況に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの家族との関わりを確認し経緯を把握しながら利用されていたサービスや家族の困りごとを少しずつ聞く事で家族との信頼関係につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思い、家族の思いを担当CMIは確認し、不安や心配事の改善の支援の提案、相談を繰り返し連携をとりながら、他に支援が生じた時は必要に応じたサービスにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、言葉、態度、行動を観察することにより、得意分野を見極め、力の発揮ができることにより満足感、意欲につなげるような信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いを受け止め寄り添い日々の生活において出来事や気づきの情報の収集に努め家族と同じ目線で支援していくことを伝え共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	懐かしい場所を家族と共に外出したり馴染みの美容室へ一緒に行かれたり、食事を共にしたり、楽しめる。懐かしい知人等の訪問時には、思い出話ができるように居室や居間で気兼ねなくお茶を一緒に楽しめるような環境作りに努めている。	馴染み関係者の訪問はあるものの、馴染みの人や場所への訪問は一部の利用者に限られています。	家族との外出を支援するために職員が付き添うなど、検討されてはいかがでしょうか。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	心身の状態や気分感情で日々変化があるので職員の注意深い観察により利用者同士の関係がうまく行くように情報を共有しながら調整役となり支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所、転居や入院された後も家族とも連携を図り、情報提供を行い他事業所の担当者へ利用中の関係性を必要に応じて情報を提供している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声掛けを日々行い言葉や表情行動等から確認し意向の把握に努めている。意思疎通の困難な方からは家族や関係者と連携をとり情報を得るようにしている。	日々の生活の関わりの中で声かけをされています。また、行動や表情をくみ取り、思いや意向を把握されています。	利用者本人の視点にたったの意向や把握に努められることを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人一人の生活歴を本人、家族からコミュニケーションを取りながらできる限り情報収集しサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の暮らし方、生活リズムの把握を行い、自分でできること、希望されていることをくみ取り飛躍され、できる事への参加、声掛けを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が安心して生活を送るために家族と関わりながら話し合い、課題と、支援の在り方について、現状に対応した介護計画を作成している。	介護計画はアセスメントとモニタリングを繰り返し期間ごとの見直しはできています。	介護計画と日々のケアが連動できるといいですね。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、気づき支援の実践結果を個別記録に記入し職員間で情報を共有し介護計画を見直し次につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じそのつど発生するニーズに対応して柔軟な支援の提供に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	校区関係の派出所、また、消防署との連携を密に行い安心した生活が営めるようしている。又サロンの方々のボランティアによる、夏祭りの出し物や餅つき会の協力、地元祭りの花馬の奉納を楽しんでもらえるよう協力をお願いしている。認知症カフェへも可能な限り出かけるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様がそれぞれ信頼関係ができて医療機関への家族同行による受診は施設での状況報告を行い必要時は職員も同行し、また、訪問診療による利用者様は主治医へ状況報告行い指示を受け、スタッフへも周知し対応している。家族へ必要時報告を行っている。	利用者の半数はかかりつけ医が往診しています。他の人は家族が付き添い、状況によっては事業所よりの支援が行われています。	適切な医療が受けられるよう通院介助や受診に関する情報交換などを密にされることを期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は訪問看護師に利用者の、体調変化の細かい事に対しても気軽に相談できる体制ができています。又必要時医療機関との連携も取れるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時医療機関へ施設での支援の状況の報告、服薬に関する資料、情報を提供し医療行為がスムーズに進むように行っている。また、退院時は医療機関より回復の状況を確認し家族と情報を交換し対応に努めるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所全体と家族と利用者について安心して最期を過ごせるよう話し合い、急変時や体調変化時、情報の共有を職員間で図り医療機関へ迅速に連絡を行い指示を受け家族、利用者が安心できるよう対応をする。	利用開始時に看とりについて説明をさせていただきます。状況に応じて再度説明が行われています。	利用者・家族の安心と納得を得られるよう、状況の変化のたびに繰り返し話し合いをされることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修の参加を積極的にしたり、医療機関からの資料を参考にし、研修時の資料やマニュアルに基づき実践力を養うよう常々再確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練を消防署と連携図り、隣接の施設と合同で行い決定時間内の火の使用・避難手順、避難場所を再確認し運営推進会議では情報の提供行い地域への協力が構築できるようにしている。	昼夜の避難訓練が実施されています。行政の避難マップにより避難場所が決められています。	夜間の避難誘導や利用者の行方不明時の対応など、実際に活用できるマニュアルを検討されてはいいでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月の勉強会等でスタッフ同士、支援を振り返り話し合う中で利用者の人格の尊重が守られプライバシーも守られているか、日々勉強しながら利用者に向き合い声掛けをしている。	日々の介護の中で不適切な対応については、その都度注意をされています。	日常的な確認と改善に向けた取り組みを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の業務の中で利用者の表情や動きを常に観察、把握することで思いをくみ取り、意思表示が遠慮なくできるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中、利用者の意思を尊重し、利用者の気持ちや体調を配慮し柔軟な対応をするよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回散髪に来られるので利用者の好みの長さに散髪してもらっている。季節、気温に合った衣服選びも利用者と一緒にアドバイスを行いつつ楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好き嫌いがある方にもおいしく食事を摂ってもらえるようにその人にあった食事の形態で提供している。スタッフも一緒にテーブルで食事し食後はテーブル拭き、お盆拭き等をスタッフと共にしている。	新鮮な旬の食材を取り入れています。音楽をかけてゆっくりとした食事時間を楽しまれるよう工夫されています。	さらに食事への関心を引き出す工夫をされることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量を把握し摂取量の少ない方には好みの味、変化した味の飲み物の提供を心がけている。食事の摂取量が少ない方にはその人に合った量を提供し全量摂取で満足感が出るような支援を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い義歯の方も洗浄を支援したり、夜間は義歯の管理を行っている。必要時は、受診へ行かれたり、往診も協力医により可能となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを参考にし一人一人のパターンを把握し、言動の観察を行いながらトイレで気持ち良く排泄ができるように支援している。またスタッフ間で排泄の状態の共有を行っている。	利用者全員リハビリパンツを使用しています。夜間はオムツ使用は一人で、その他はトイレ誘導又はポータブルトイレが使用されています。	排泄パターンに応じた個別の排泄支援を継続されることを期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックの活用で個々の習慣、量を把握し乳製品も含めた所の水分量の確保、体操や散歩等で体を動かす機会をつくり自然排便への取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本入浴の日程は決めているが、利用者の体調精神状態を把握し気持ち良く入浴できるよう、拒否の人は時間を置いたり違うスタッフの声掛けを行うなど利用者に合わせて対応している。	個浴にて一人ひとりが気持ちよく寛いだ気分で入浴できるよう支援されています。	浴槽内に入るまでのハード面の整備を検討されることも必要ではないかと思われます。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の好みの休息の状態を把握し、気持ち良く休息をして頂くため居室だったり和室だったり利用者の意思を尊重しゆっくりと静養して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬について、状態、変更(増減量等)時、申し送りノートに記載したり口頭でも申し送り時、伝達し注意点の情報の共有を図り職員全員が把握できるように努めている。利用者全員の服薬について職員がわかるようにまとめている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の気分、体調の把握を行い、個々が興味を持ち、無理なく今までの経験を生かし意欲的に発揮できる機会を生活の中で作る事で、役割が意欲へとつながるような支援をしている。また利用者へは、感謝の気持ちを伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の気分、体調に合わせて苑内の散歩、戸外への外出をできる限り行い、季節を感じてもらえるよう心掛けている。また、地域の認知症カフェが出来たことで交代でカフェへも出かけてもらい、お茶を飲みながら楽しんでもらっている。年度行事で地域の施設が参加する行事へも参加予定。	年間行事や集団での外出は実施されいます。近隣への日常的な外出や個別的な外出支援は少ないようです。	気分転換やストレス発散、五感刺激の機会として外出は有効です。いきいきと過ごせるように日常的な外出の機会の確保を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により、少額のお金を持ち孫さんの面会時おこずかいを渡す楽しみお持ちの方がおられる。帰りには、そのお金はまた、スタッフに反して行かれ、渡す楽しみとされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者家族より色々なものが届いたりしたとき、本人の希望により、電話で家族とお話する機会をつくり、安心してもらっている。ご家族も声を聞かれることでまた、安心されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日生活されるフロアからの眺めに道路を走る車、台所からは美味しい匂い、壁面にはその季節の物を飾ったり、利用者と一緒に折った折り紙などを飾り季節を感じてもらっている。	共有空間の窓からは周りの景色がよく見え、時間帯によって地域人々の生活の様子の変化が感じられます。またカウンター越しに調理や食事の支度などの雰囲気を感じられます。	利用者の居心地の良さや、活力を引き出すための五感刺激への配慮を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日頃の関係性や総合関係を考慮し、各々が過ごしやすい空間作りの提供をしている。食事の時、気の合った方との席の配置やリラックスできる様ソファも設置し楽しい会話もできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	スペースの中で居心地良く過ごせるよう自宅で使用していたものを持ってきてもらうよう家族へ願っている。	それぞれの居室がシンプルに整えられています。	その人らしさが見える居室の空間づくりを検討されることを期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ること、わかる事を、それぞれの家族へも相談し状況に合わせた環境整備を行い、個人の理解認知力に応じ安全への支援、介入に努めている。		